

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ムサシノガクイン 学校法人 武蔵野学院								
フリガナ大学の名称	ムサシノガクインダイガクダイガクイン 武蔵野学院大学大学院 (Musashinogakuin University Graduate School)								
大学本部の位置	埼玉県狭山市広瀬台3丁目26番地1号								
大学の目的	広い視野に立って、専門分野を教授・研究し、高度な知的基盤社会を支えリードする人材を育成し、もって我が国及び国際社会の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	国際感覚を持ち、国際的舞台や大学、研究機関等で研究者等として活躍しうる知識、行動力ならびに日中に関するコミュニケーション能力を有し、もって知的基盤社会をリードする高度な学識を備えた人材育成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション研究科国際コミュニケーション専攻（博士前期課程）
	国際コミュニケーション研究科 (Graduate School of International Communication) 日中コミュニケーション専攻 (Division of Japan-China Communication) (博士後期課程)	3年	3人	-	9人	博士（国際コミュニケーション）	平成23年4月第1年次	埼玉県狭山市広瀬台3丁目26番地1号	
	計		3	-	9				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	平成23年4月から国際コミュニケーション研究科国際コミュニケーション専攻（修士課程）を区分制博士課程（博士前期課程）に変更。								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数			
	国際コミュニケーション研究科 日中コミュニケーション専攻 (博士後期課程)	講義	演習	実験・実習	計	8単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	国際コミュニケーション研究科 日中コミュニケーション専攻(博士後期課程)	教授	准教授	講師	助教	計		助手
		計	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	3 (3)
	既設	国際コミュニケーション研究科 国際コミュニケーション専攻(博士前期課程)	11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	11 (11)
		計	11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	11 (11)
	合計		11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	14 (14)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		10人 (10)		3人 (3)		13人 (13)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		1 (1)		1 (1)		2 (2)		
	その他の職員		0 (0)		4 (4)		4 (4)		
計		11 (11)		8 (8)		19 (19)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	武蔵野短期大学 と共用				
	校 舎 敷 地	0 m ²	31,837 m ²	0 m ²	31,837 m ²					
	運 動 場 用 地	0 m ²	1,449 m ²	0 m ²	1,449 m ²					
	小 計	0 m ²	33,286 m ²	0 m ²	33,286 m ²					
	そ の 他	0 m ²	4,374 m ²	0 m ²	4,374 m ²					
合 計	0 m ²	37,660 m ²	0 m ²	37,660 m ²						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	武蔵野短期大学 と共用				
		4,545 m ² (4,545 m ²)	6,222 m ² (6,222 m ²)	1,773 m ² (1,773 m ²)	12,540 m ² (12,540 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	15 室	8 室	1 室	1 室 (補助職員 1 人)	1 室 (補助職員 1 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数	申請研究科全					
		国際コミュニケーション研究科		12 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体で共 分 図書70,918冊 (うち外国書 9,439冊) 学術雑誌159種 (うち外国書 39種) 視聴覚資料 1,721 機械・器具 400		
	国際コミュニケーション研究科 日中コミュニケーション専攻 (博士後期課程)	700 [310] (700 [310])	37 [34] (37 [34])	4 [3] (4 [3])	75 (75)	11 (11)	0 (0)			
	計	700 [310] (700 [310])	37 [34] (37 [34])	4 [3] (4 [3])	75 (75)	11 (11)	0 (0)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		3,437 m ²		103	108,000					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		725 m ²		-						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	「共同研究費等」は大学全体。「図書購入費」には電子ジャーナル、データベースの整備費(運用コストを含む)を含む。	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等		600千円	600千円	600千円	-千円	-千円		-千円
		共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	-千円	-千円		-千円
		図書購入費	3,000千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	-千円	-千円		-千円
	設備購入費	1,000千円	0千円	0千円	0千円	-千円	-千円	-千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
880千円		700千円	700千円	-千円	-千円	-千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入等								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	武蔵野学院大学大学院								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	国際コミュニケーション研究科 国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	年	人	年次人	人	修士(国際コミュニケーション)	1.05	平成19年	埼玉県狭山市広瀬台3丁目26番1号	
	2	10	-	20						
	大 学 の 名 称	武蔵野学院大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科	年	人	年次人	人	学士(国際コミュニケーション)	0.94	平成16年	埼玉県狭山市広瀬台3丁目26番1号		
4	120	3	510	2						
大 学 の 名 称	武蔵野短期大学									
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		

<p>附属施設の概要</p>	<p> 名 称：武蔵野学院北海道キロレジデンス 目 的：宿泊，研修施設 所 在 地：北海道余市郡赤井川村字落合356-2 設置年月：平成7年7月 規 模 等：土地115,891㎡，建物7,120㎡，収容人数240名 </p> <p> 名 称：武蔵野学院箱根芦ノ湖レジデンス 目 的：宿泊，研修施設 所 在 地：神奈川県足柄下郡箱根町元箱根旧札場159 設置年月：昭和41年7月 規 模 等：土地34,128㎡，建物4,956㎡，収容人数400名 </p> <p> 名 称：武蔵野学院狭山の杜 目 的：多目的自然広場 所 在 地：埼玉県狭山市入間川1774 設置年月：平成14年3月 規 模 等：土地28,614㎡ </p> <p> 名 称：武蔵野学院狭山総合グラウンド 目 的：運動場 所 在 地：埼玉県狭山市上広瀬字西中原1065 設置年月：平成元年10月 規 模 等：土地15,893㎡ </p> <p> 名 称：武蔵野短期大学プール 目 的：屋内プール 所 在 地：埼玉県狭山市上広瀬字東中原859-1 設置年月：平成11年3月 規 模 等：建物649㎡ </p>
----------------	---

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(国際コミュニケーション研究科日中コミュニケーション専攻) (D)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
コミュニケーション 関連研究科目	国際コミュニケーション特殊研究	1・2前		2				○			1						
	国際文化交流特殊研究	2・3後		2				○			1						
	日中交渉史特殊研究	1・2前		2				○									兼1
	日中関係特殊研究	2・3後		2				○									兼1
	国際ビジネス特殊研究	2・3後		2				○									兼1
	国際情勢特殊研究	2・3前		2				○									兼1
	小計 (6科目)	—		12				—			3	0	0	0	0	0	兼4
言語研究科目	日本語特殊研究1	1・2前		2				○			1						
	日本語特殊研究2	1・2後		2				○			1						
	中国語特殊研究1	1・2前		2				○			1						
	中国語特殊研究2	1・2後		2				○			1						
	小計 (4科目)	—		8				—			2	0	0	0	0	0	0
文化研究科目	日本文化特殊研究1	1・2前		2				○			1						
	日本文化特殊研究2	1・2後		2				○									兼1
	中国文化特殊研究1	1・2前		2				○			1						
	中国文化特殊研究2	1・2後		2				○									兼1
	小計 (4科目)	—		8				—			2	0	0	0	0	0	兼2
	(研究指導)	1~3		—				—			6	0	0	0	0	0	0
合計 (14科目)		—		28				—			6	0	0	0	0	0	兼6
学位又は称号	博士 (国際コミュニケーション)		学位又は学科の分野					文学									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
修了要件：コミュニケーション関連研究科目より選択必修2単位以上、 言語研究科目より選択必修2単位以上、文化研究科目より選択必修2単位以上、 上記3つの科目区分で合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で博士論文を提出したのち、本大学院が行う博士論文の審査及び最終試験（口頭試問）に合格しなければならない。 （履修科目の登録の上限：6単位（年間））							1学年の学期区分			2期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業時間			90分							

教育課程等の概要															
(国際コミュニケーション研究科国際コミュニケーション専攻) (M)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コミュニケーション科目	コミュニケーション特殊講義	1前		2		○								兼1	
	コミュニケーション特殊演習	1後		2			○							兼1	
	国際コミュニケーション特殊講義	1前		2		○			1						
	国際コミュニケーション特殊演習	1後		2			○		1						
	異文化コミュニケーション特殊講義	1・2後		2		○			1						
	コミュニケーション心理特殊講義	1・2前		2		○								兼1	
	対人コミュニケーション特殊講義	1・2後		2		○								兼1	
	非言語コミュニケーション特殊演習1	1・2前		2			○							兼1	
	非言語コミュニケーション特殊演習2	1・2後		2			○							兼1	
	メディアコミュニケーション特殊講義	1・2後		2		○			1						
小計(10科目)	—	0	20	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	兼4	—
言語科目	英語コミュニケーション特殊演習1	1・2前		2			○			1					
	英語コミュニケーション特殊演習2	1・2後		2			○			1					
	英語コミュニケーション特殊演習3	1・2後		2			○							兼1	
	英語コミュニケーション特殊演習4	1・2後		2			○		1						
	中国語コミュニケーション特殊演習1	1・2前		2			○		1						
	中国語コミュニケーション特殊演習2	1・2後		2			○		1						
	日本語特殊演習1	1・2前		2			○		1						
	日本語特殊演習2	1・2後		2			○		1						
小計(8科目)	—	0	16	0	—	—	—	3	1	0	0	0	0	兼1	—
社会・文化科目	日本文化特殊講義1	1前		2		○			1						
	日本文化特殊講義2	1前		2		○			1						
	日本文化特殊演習1	1・2後		2			○		1						
	日本文化特殊演習2	1・2後		2			○		1						
	日本政治特殊講義	1・2前		2		○								兼1	
	日本経済特殊講義	1・2前		2		○			1					兼1	
	日本社会特殊講義	1・2前		2		○								兼1	
	国際政治特殊講義	1・2後		2		○								兼1	
	国際企業・経営特殊講義	1・2前		2		○			1						
	国際情勢特殊講義	1・2前		2		○			1						
	北アメリカ文化特殊講義	1・2前		2		○								兼1	
	中国文化特殊講義	1・2前		2		○			1						
	中国文化特殊演習	1・2後		2			○		1						
	西欧文化特殊講義	1・2前		2		○			1						
	中東文化特殊講義	1・2後		2		○								兼1	
	国際文化交流特殊講義	1・2前		2		○			1						
小計(16科目)	—	0	32	0	—	—	—	8	0	0	0	0	0	兼6	—
研究指導	研究指導1	1前	2				○		11						
	研究指導2	1後	2				○		11						
	研究指導3	2前	2				○		11						
	研究指導4	2後	2				○		11						
	小計(4科目)	—	8	0	0	—	—	—	11	0	0	0	0	0	—
合計(38科目)	—	8	68	0	—	—	—	11	1	0	0	0	0	兼11	—

学位又は称号	修士（国際コミュニケーション）	学位又は学科の分野	文学	
卒業要件及び履修方法		授業期間等		
修了要件：コミュニケーション科目より選択必修4単位以上、言語科目より選択必修4単位以上、社会・文化科目より選択必修4単位以上、上記3つの科目区分で合計22単位以上を修得し、かつ研究指導で必修8単位を修得すること。その上で、修士論文を提出し、本大学院が行う修士論文の審査及び最終試験（口頭試問）に合格しなければならない。（履修科目の登録の上限：26単位（年間））		1 学年の学期区分	2 期	
		1 学期の授業期間	15 週	
		1 時限の授業時間	90 分	

様式第2号 (その2)

教育課程等の概要																
(国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	文化	文学	1・2前	2		○							1			兼1
		歴史	1・2前	2		○						1				
		民俗学	1・2後	2		○			1							
		倫理学	1・2後	2		○										
	社会	日本国憲法	1・2前	2		○						1				兼1
		現代社会と法	2・3前後	2		○						2				
		現代社会と政治	1・2前	2		○										
		現代社会とビジネス	1・2前後	2		○							1			
		現代社会と情報	2・3後	2		○					1					
	科学	環境と科学	2・3前	2		○			1							兼1 兼1 兼1
		生活と自然	1・2前	2		○										
		生活と科学	1・2後	2		○										
		コンピュータと情報数学	1・2前	2		○						1				
	スポーツ	保健体育	1・2前	2		○			1							兼1
		スポーツ1	1・2前	2					1		○					
		スポーツ2	2・3集	2							○					
		スポーツ3	2・3後	2					1		○					
		スポーツと健康1	1・2前	2					1		○					
		スポーツと健康2	1・2後	2					1		○					
	総合科目	英語コミュニケーション	1・2前	2			○				2					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
		中国語コミュニケーション	1・2前	2			○					1				
		かみながえのない地球	2・3前	2			○									
		人間と安全保障	3・4後	2			○									
		女性論	3・4集	2			○									
		ボランティア	1・2後	2			○									
		現代企業と職業	1・2前後	2			○						1			
		リカレント教育論	1・2前	2			○									
小計(27科目)		—	0	54	0			—	3	3	5	2	0	兼8		
専門科目	言語コミュニケーション科目	Freshman English Reading	1前	2				○		1	2					
		Freshman English Writing	1後	2				○		1	2					
		Freshman Oral English	1前	2					○			1	1			
		Advanced English Reading	2後	2					○		1	2				
		Advanced English Writing	2前	2					○		1	2				
		Advanced Oral English	1後	2								1	1			
		Integrated English	3・4前	2								1				

	English Grammar	2・3前		2			○		1					
	Public Speaking	2・3前後		2			○				1			
	Freshman Communication English	1・2前		2			○			1	1			
	Advanced Communication English	2・3後		2			○			1	1			
	英語討論	3・4前後		2			○			2				
	ビジネス英語	3・4後		2			○			1				
	英語学概論	2・3後		2		○			1					
	英米文学史	1・2前		2		○			1					
	英語講読	3・4後		2			○		1					
	中国語Ⅰ(初級)	1・2前		2			○				1			
	中国語Ⅱ(中級)	1・2後		2			○				1			
	中国語Ⅲ(上級)	2・3前		2			○				1			
	フランス語Ⅰ(初級)	1・2前		2			○							兼1
	フランス語Ⅱ(中級)	1・2後		2			○							兼1
	日本語Ⅰ(初級)	1・2前後		2			○					1		兼1
	日本語Ⅱ(中級)	1・2後		2			○							兼1
	日本語Ⅲ(上級)	2・3前		2			○							兼1
コンピュータサイエンス科目	情報処理入門	1前・秋・冬・春・夏後	2				○				2			
	情報関連法規	1・2前		2		○				1				
	Computer Training 1	1前	2				○			2				
	Computer Training 2	1後		2			○			1	1			
	情報処理応用演習Ⅰ	2・3前		4			○				1			
	情報処理応用演習Ⅱ	2・3後		4			○				1			
	ネットワークシステム	1・2前		4		○			1					
	システム設計	2・3前		2			○							兼1
	デジタル通信	1・2後		2		○				1				
	情報検索	2・3後		2			○							兼1
	マルチメディア表現	3・4後		2			○			1				
	情報機器利用プレゼンテーション演習	3・4後		4			○			1				
	社会情報システム論	1・2前		2		○				1				
	情報と職業	1・2後		2		○			1					

人間コミュニケーション理解関連科目	コミュニケーション概論	2・3集		2		○							兼1
	マス・コミュニケーション概論	2・3前後		2		○		1					
	異文化コミュニケーション	1・2後		2		○		1					
	プレゼンテーション	1・2前		2		○							兼1
	言語的コミュニケーション論	2・3後		2		○		1					
	非言語的コミュニケーション論1(音楽表現)	1・2集		2			○						兼1
	非言語的コミュニケーション論2(造形表現)	1・2前後		2			○						兼1
	非言語的コミュニケーション論3(行動表現)	3・4前		2			○						兼1
	コマーシャル表現論	3・4前		2		○			1				
	映像表現論	1・2前		2		○		1					
	社会学概論	1・2前		2		○							兼1
	心理学概論	1・2後		2		○							兼1
	カウンセリング	2・3後		2		○							兼1
	発達心理学	3・4前		2		○							兼1
	社会心理学	2・3後		2		○							兼1
	教育社会学	1・2後		2		○							兼1
	社会福祉	1・2後		2		○							兼1
	老人福祉	2・3前		2		○							兼1
	家族関係論	3・4集		2		○							兼1
	世代交流論	2・3後		2		○							兼1
日本理解関連科目	日本文化論	1・2後		2		○		1					
	日本の生活文化	3・4前		2		○		1					
	日本の文学とことば	1・2後		2		○				1			
	日本の思想と宗教	2・3前		2		○							兼1
	日本の政治と歴史	1・2前後		2		○				1			兼1
国際情報理解関連科目	国際コミュニケーション	1・2前後		2		○		1					
	国際関係	3・4前		2		○							兼1
	国際情勢	1・2後		2		○		1					
	国際情報論	3・4後		2		○		1					
	危機管理	1・2前		2		○		1					
	国際政治史	1・2後		2		○							兼1
	国際サービス	3・4後		2		○							兼1
	ビジネス・マネジメント	3・4前後		2		○					1		
	簿記・会計	1・2後		2		○							兼1
	金融論	3・4前後		2		○							兼2
	国際経済協力	2・3前		2		○							兼1
	国際文化交流	1・2後		2		○		1					

地域事情理解関連科目	アメリカ文化事情Ⅰ	1・2前後		2		○				1				
	アメリカ文化事情Ⅱ	1・2後		2		○				1				
	日米交渉史	3・4後		2		○				1				
	西欧文化事情Ⅰ	3・4後		2		○							兼1	
	西欧文化事情Ⅱ	3・4前		2		○							兼1	
	オセアニア文化事情	1・2集		2		○							兼1	
	アラブ文化事情	3・4前		2		○							兼1	
	東南アジア文化事情	2・3集		2		○							兼1	
	中国文化事情Ⅰ	1・2前		2		○			1					
	中国文化事情Ⅱ	1・2後		2		○			1					
	日中交渉史	2・3前		2		○			1					
	韓国文化事情	1・2集		2		○							兼1	
	日本事情	1・2前		2		○			1					
	小計(88科目)	—		16	168	0	—		9	5	5	3	0	兼24
専門実習科目	海外研修	2・3前		6				○		1	2	2		
	国際交流	3・4前		2				○	1		1			
	インターンシップ1	2・3前		2				○		1		1		
	インターンシップ2	2・3後		2				○		1		1		
	国際ボランティア	2・3前		6				○			1			
	ボランティア1	2・3前		2				○	1					
	ボランティア2	2・3後		2				○	1					
	日本の伝統文化1(華道・茶道)	3・4前		2			○							兼2
	日本の伝統文化2(書道・伝統芸能)	3・4後		2			○							兼2
	小計(9科目)	—		0	26	0	—		2	2	3	3	0	兼4
専門ゼミ科目	演習Ⅰ(入門)	3前		4				○		6	3		1	
	演習Ⅱ(専門基礎)	3後		4				○		6	3		1	
	演習Ⅲ(専門発展)	4前 <small>秋入學3前</small>		4				○		6	3		1	
	演習Ⅳ(専門完結)	4後		4				○		6	3		1	
	小計(4科目)	—		0	16	0	—		6	3	0	1	0	—
合計(128科目)	—		16	264	0	—		13	6	6	4	0	兼33	
学位又は称号	学士(国際コミュニケーション)			学位又は学科の分野				文学						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
専門科目16単位必修、基礎科目20単位以上選択必修、言語コミュニケーション科目より選択必修単位6単位以上、コンピュータコミュニケーション科目より選択必修単位6単位以上、人間コミュニケーション理解関連科目より選択必修単位10単位以上、日本理解関連科目より選択必修単位6単位以上、国際情勢理解関連科目より選択必修単位10単位以上、地域事情理解関連科目より選択必修単位10単位以上、言語コミュニケーション科目、コンピュータコミュニケーション科目より、上記を除いて選択必修8単位以上、人間コミュニケーション理解関連科目、日本理解関連科目、国際情勢関連科目、地域事情理解関連科目より、上記を除いて選択必修単位12単位以上、国際コミュニケーション実習8単位(選択必修単位)以上、国際コミュニケーション関連ゼミ12単位(選択必修単位)以上を修得し、124単位を修得すること。 (履修科目の登録の上限:50単位(年間))								1学年の学期区分		2学期				
								1学期の授業期間		15週				
								1時限の授業時間		90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(国際コミュニケーション研究科日中コミュニケーション専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニケーション 関連 研究 科目	国際コミュニケーション特殊研究	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標は、国際コミュニケーションに関する専門知識を修得し、研究に際して問題発見的にアプローチする視点を身につけることを目指す。 ・本演習ではテーマとして、国際コミュニケーションが国際関係、国民国家の政治、社会・文化等に及ぼす影響を取り上げる。今日、コミュニケーション技術の発展により、国際コミュニケーションを取り巻く環境も大きく変化してきている。それに伴って国民国家のあり様の変容、情報主権、国際的な情報流通の格差、国際情報コミュニケーション秩序の再構築といった問題が生じてきた。本演習では、これらの問題の要因、背景等を分析することを通して、国際コミュニケーションの様態と変容について考察していく。テーマ毎に院生に報告発表してもらい、ディスカッションを通してこの分野の研究への理解を深化させていく。 	
	国際文化交流特殊研究	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標は「国際文化交流」とは何かを理解させることにあり、テーマとして文化芸術を中心とした国際文化交流を取り上げる。 ・国際化に伴い国際文化交流を全く考えずして、社会・文化を考察することは難しくなっている。この特殊研究では文化芸術を中心に、「文学」「演劇」「メディア芸術」の分野から国際文化交流、そこから派生する諸事象を取り上げ、先行研究文献の確認を行い、研究方法を提示したい。インターネット検索の活用法も取り上げる一方、資料等については現物主義をモットーにリサーチの手法を含め、その重要性についても触れる予定である。 	
	日中交渉史特殊研究	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標は文化交渉史に関する先行諸説を検討し、研究方法論を身につける。日中交渉史に関する基礎史料を丁寧に読み、オリジナルな視点・史眼・センスを育てる。 ・東アジア地域の相互連動を視野に、個々の事件・人物・現象を歴史的にして総合的かつ広域的に考察する。精神文明の結晶とされる書物の交流を手がかりに、日中交渉史の普遍性と独自性をさぐる。書物交流をめぐる史話を盛り込みながら、日中文化交流の歴史をたどる。 	集中
	日中関係特殊研究	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標は日中関係を中心に日中の交流を理解させることにあり、テーマとして歴史・経済・文化・宗教・政治諸分野を取り上げる。 ・日中の未来関係を切り開く優秀な人材を育成するには高い視野に立って日中関係を考察することが必要となっている。そのためには歴史書物、歴史文献の研究と現地調査を重視し、新しい視野で日中関係を考察し、過去、現在の日中関係を総括し、日中の未来交流を切り開く人間を指導すべきである。この日中関係特殊研究では先行研究文献を紹介しながら、研究方法を提示したい。必要に応じた内容で発表させることも視野に入れておきたい。 	集中

コミュニケーション 関連 研究 科目	国際ビジネス特殊研究	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標は、グローバル時代における現代企業を中心とする様々な組織を対象として、その構造およびプロセスの変革方法を理論的・実践的に考察することを通じて、企業競争力の基本的な課題およびその解決のための体系的な知識と実践的スキルを習得することを目的とする。 ・授業は、競争力強化への組織変革に関する主要課題についての授業とそれに関連するケース研究とを組み合わせる形式で進める。授業では、世界85カ国で活用されているPerformance Excellence Modelの概念をもとに理論開発した経営品質向上メカニズムモデルを習得し、事例企業演習を深く分析することを通して、企業競争力向上のメカニズムと実践的手順の理解を深める。 	
	国際情勢特殊研究	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標は米中2極構造下での日本をめぐる国際情勢と今後の日本の役割を考察する。テーマはこれからの国際社会を左右する中国の実像を把握し、中国の地域覇権化のみならず、これから米国とともに国際社会にどのような貢献ができる国になれるのか、そしてその際の日本の役割を考える。 ・日本を取り巻く国際情勢、特に米国・中国・アジアを中心に、世界の安全保障環境を取り扱う。授業の後半は、学生と意見交換・討議を通じて指導を行う。 	
言語 研究 科目	日本語特殊研究 1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標は現代日本語の表記法の中心は漢字仮名交じりである。本授業ではこの漢字仮名交じり文の成立過程を究めることを目指す。いわゆる東アジア文化圏が漢字という共通文字の通用によって成立し得ていることから、特に中国古代からの文化交流の内面を模索し、国際型コミュニケーション展開の一助とする。テーマは「和漢混交文の日本語学的研究」とする。 ・院政・鎌倉時代に平安時代の和文脈語と漢文訓読語と、そして当時の俗語との混交によって生じた新文体、すなわち和漢混交文における音韻・語彙・語法（文法）に留意し多角的に考察する。文献としては『平家物語』をはじめとする軍記物語や『今昔物語』をはじめとする説話集などを取り扱う。受講生には上記の目的に沿った様々な資料に触れる機会を与え指導する。 	
	日本語特殊研究 2	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標は現代日本語への変遷の姿を中世後期の口語資料を通して探るとともに、国際的コミュニケーションの展開に即応する日本語の特色をさまざまな観点から明らかにする。テーマは「抄物から現代日本語への変遷の姿を探る」とする。 ・古代日本語から近・現代日本語への変遷の過渡的時期は中世後期の室町時代である。この時代は言文（話し言葉と書き言葉）が二途に完全に乖離し、それぞれ独自の道を辿っているが、特に口語（話し言葉）の世界においては顕著な変化が現れる。本授業では室町時代の三大口語資料の一つである抄物の『長恨歌抄』（中国唐代の詩人白樂天によって、玄宗皇帝が楊貴妃を失った怨恨の情を歌った漢詩「長恨歌」を注釈講義したものの筆記録）を資料として、古代日本語から近・現代日本語への変遷の姿を分析し、現代日本語の諸問題を捉え考察し、小論文テーマとしてまとめられることを目標とする。 	

言語研究科目	中国語特殊研究 1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標は中国語コミュニケーションの基礎知識を身につけて、その要領を把握し、能力を磨くことである。テーマとして日中文化事情、日本人と中国人のもの考え方、行動様式を取り上げ、中国語と日本語の対照研究により、両言語の特徴を明確にすることである。本授業は、日中関係の改善、交流発展において重要な意義を有し、研究に値する課題の一つである。 ・本授業では、異文化コミュニケーションの諸理論を依拠しながら、人間、言語、文化、言語の関連事例を分析し、日中コミュニケーションの問題点、発生要因を考察し、解決策を探る。 	
	中国語特殊研究 2	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標は日本企業の中国進出をスムーズにし、相互に利益を得るために中国語コミュニケーションの能力を高めることである。テーマとして日中文化、日中言語の違いから起きた誤解の事例を分析し、日中コミュニケーションの問題点、発生要因、解決方法を取り上げる。 ・日本企業の中国進出においてよりよい成果をあげるため、日中言語の差異、生活習慣の相違、思惟方法、行動規範の特徴から起きた誤解の事例を分析し、コミュニケーションにおける問題点を見出し、日中交流に役立つようなコミュニケーションの方法と要領を模索する。 	
文化研究科目	日本文化特殊研究 1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標は日本人がほとんど自覚することなく生活上享受している長年に渡り積み上げられてきた日本文化の特色の中で主として社会生活、とりわけ社会規範、法的側面よりスポットを当て、深く研究するようなテーマを取り上げ、理解させる。 ・この目標に合ったテーマとしては法条文や法制度より表層的、形骸的に法秩序を看るのではなく、研究対象の時代の人々の生活実態・意識になるべく近づけるため社会慣行や風習、反社会的行為に対する制裁。それらの背景や法意識。法民俗学的手法もとり入れ、また、物事に潜在している価値観や文化的意味。更には、その担い手である人々の特質や人間関係等の分析を具体的に種々の資料を駆使して、現代とも対比しつつ設定した各テーマにそって研究成果を構築していくよう研究・指導していく。当面は現代迄生活各分野で影響力を残している、江戸時代を研究対象の中心とする。 	
	日本文化特殊研究 2	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標は、日本文化を民俗学の研究手法を通して考察し、その専門的知識を深め、考察力を養うこと。テーマとしては、柳田國男の『明治大正史 世相編』を中心とした生活文化の研究書講読を通し、昭和、平成の世相を考察する。 ・柳田國男は『明治大正史 世相編』の自序で「現代生活の横断面、すなわち毎日われわれの眼前に出る消える事実のみに拠って、立派に歴史は書けるものだと思っている」と説いた。世相史を民俗学の視点で論述を試みた柳田國男のその著を講読しながら、その世相が昭和から平成への時代推移を通してどう変遷していったのか、あらたな文化資料の発掘等を試み、その考察を通して、日本の生活文化を研究し、考察を深めていく。 	
	中国文化特殊研究 1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標は中国文化を中心に日中の文化交流を理解させることにあり、テーマとして歴史・言語・文学・社会・政治・民俗・民族諸分野を取り上げる。 ・国際文化社会を切り開く知性に富む人間を育成するには文化的視野に立って、中国文化を考察することが必要となっている。そのためには歴史書物・歴史文献の研究と現地調査を重視し、新しい視野で中国文化を考察し、過去・現在の文化を総括し、未来の文化交流を切り開く人間を指導すべきである。この中国文化特殊研究では先行研究文献を紹介しながら、研究方法を提示したい。必要に応じた内容で発展させることも視野に入れておきたい。 	

文化研究科目	中国文化特殊研究 2	<p>・授業の到達目標は中国の沿海地域に進出する日系企業の労使関係問題の裏にある社会・文化背景を考えることを課題とする。日系企業における労使問題の文化背景へのアプローチ。</p> <p>・近年の中国調査で明らかにされた日系企業の労使関係問題を手引きとして中国の労使関係を左右する計画経済時代の「国営企業」の労使慣行、党の組織、労働組合の役割を考察する。さらに、中国社会の根底にある「平均主義」、「血縁・地縁を中心とした人脈関係」、「出世ルート」、「主要出稼ぎの出身地方の文化パターン」の影響を分析する。以上の基礎知識を踏まえて「近代中国における伝統文化の継承と断絶」という課題を考える。</p>
(研究指導)		<p>(1 本多周爾)</p> <p>研究に際して、ヒューリスティックに取り組む視点と姿勢を養う。テーマとして国際コミュニケーションの量的、質的变化が、国際関係、当該国の政治変動、社会変容などに及ぼす影響の分析を取り上げる。研究指導にあたっては、どのような問題意識を持って研究を進めるのか、それをいかにテーマと内容に反映させるかを教示し、それにどのようにアプローチするかについての方法論を修得するよう指導する。博士論文は学術的な研究成果とオリジナリティが要求されるので、先行研究の整理・検討、分析、文献・資料の収集とそれらの分析、方法論の確立を目指すなかで、独自の視点から研究テーマに取り組むよう指導を行う一方、論文執筆に当たっての方法、構成、要領、注の付け方などについて指導する。</p> <p>(2 佐々木隆)</p> <p>特に演劇・メディア芸術・文学等を中心にした国際文化交流は、国境を越え、社会・文化・伝統や価値観等に影響や変容をもたらす国際コミュニケーションの一事象ととらえ、国際文化交流に関する研究指導を行う。文部科学省、文化庁、外務省、国際交流基金等の動きにも十分に注意を払いたい。具体的な内容については、院生と相談・決定した研究テーマに基づき、博士論文の作成に向かって当該関連の事象や研究方法論、さらに先行研究等を捉えながら、論文の書き方などを含め、総合的かつ個別に研究指導を行う。</p> <p>(3 汪玉林)</p> <p>日中コミュニケーションを中心として国際交流を国境を越え、歴史・経済・文化・文学・社会・民俗・民族諸分野に影響をもたらした日中コミュニケーションの事象をとらえ、日中コミュニケーションに関する研究指導を行う。院生と相談・決定した研究テーマに基づき、博士論文の作成に向かって、当該関連の事象や研究方法論に触れながら、総合的かつ個別に研究指導を行っていく。</p> <p>(4 坂詰力治)</p> <p>漢字を基軸とした日本語と中国語との関連性に考慮し、日本語の基礎的事柄と変遷についての知識を身に付けることを前提に、対象に即した研究方法の指導を目指す。テーマは「日本語の変遷から中世語の姿を捉える」とする。</p> <p>音韻・語彙・語法（文法）・文体などの研究分野のうち、院生の問題意識に基づき、目指す研究のテーマ決定のための指導・研究文献目録の作成・日本語研究の基本文献を通しての研究テーマに即した研究計画の立案を指導・調査・検討結果についての内容指導・中間報告、研究発表への指導を行う。研究発表の結果から得た問題点、助言を基に内容の検討、整理し、不足資料の補足をして論文発表へ向けての指導を行い、最終的に博士論文作成を目指す。</p>

(5 刘金釗)

文化の違いから起きた誤解が日本と中国の更なる交流を妨げているのが現状である。研究指導では、中国人と日本人の相互理解を深め、交流の拡大を目的とする。異文化コミュニケーションの理論知識を踏まえて学生の問題意識と問題の解決能力を養った上で、日中言語、文化の対照研究、日本人と中国人の思惟方法、行動様式についての考察などを研究テーマとして調査研究の手法を用いて、実用性のあり、価値のある博士論文を完成させるように指導する。立派な日中コミュニケーションに役立つような研究者を養成する。

(6 大久保治男)

「日本文化」、とりわけ法文化や社会規範的生活実体が看取される文化等に関し、対象分野の拡大も含めた諸研究事項に対し、研究を深められる具体的テーマを精査して取り上げ、史料の積み上げや法民俗学的分析方法も用いて博士論文作成の計画、内容等院生とも十分討議した上で決定された「研究課題」に付き、以下の如き手法を用いて研究の実践・指導を行う。即ち、研究方法、文献の検索・精読からスタートし、データの調査、収集、解析、章立て、仮説設定と順次指導を強め、最終段階では博士論文執筆、完成へきめ細かい配慮も加える。各段階での中間発表や関連小論文の執筆も確実に成果を挙げつつ、研究課題に合目的的な指導を行う。